大分合同新聞

ワークシート　　年　　組　　名前

東京パラリンピック開幕についての論説記事です。筆者が伝えたいことを読み取り、自分の意見を書いてみましょう。

2021年8月24日付　大分合同新聞2面

①（　）に言葉を入れて、段落ごとに要点を整理しましょう。

第1段落　東京パラがきょう開幕

第2段落　前回の東京パラは別府市の「（　　）」を創設した中村博士が開催に尽力

第3段落　県関係は5選手が栄冠を目指す

第4段落　県関係を含む日本代表の活躍を期待

第5段落　中村博士の57年前の体験。外国人選手と日本の選手たちの就労状況と社会生活の格差

第6段落　「太陽の家」の創設、現在

第7段落　パラリンピックの目的「（　　）」…大分県には学びの場がある

第8段落　東京パラを（　　）に関して気づきを得る機会にし、太陽ミュージアムを訪ねたい

②障害のある人、ない人が共に生きる「共生社会」をテーマに意見文を書きましょう。

論説　2021.8.24

パラリンピック開幕

感動を胸に共生を考えたい

東京パラリンピックはきょう24日に開幕し、9月5日まで22競技の539種目に4千人を超える選手が出場して行われる。

1964年に開かれた前回の東京パラでは、別府市の「太陽の家」を創設した故・中村裕博士が開催に尽力し、日本選手団長を務めた。「国際障害者年」の81年には中村博士の提唱で、世界初の車いす単独の国際レースとして「大分国際車いすマラソン大会」が始まり、今年で40回記念大会を迎える。こうした経緯から大分県は国内の障害者スポーツ発祥の地といわれる。

今回の東京パラで県関係では▽中西麻耶(36)＝由布市出身・阪急交通社＝陸上女子走り幅跳び（義足T64）▽十川裕次(24)＝大分市出身・ソレイユ＝陸上男子1500㍍(知的障害T20)▽工藤博子(36)＝大分市出身・ユナイトアンドグロウ＝視覚障害者柔道女子63㌔級▽安尾笑(28)＝大分市在住・ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング＝車いすバスケットボール女子▽坂元智香(39)＝日出町在住・メディケアアライアンスあおぞら病院＝パワーリフティング女子79㌔級―の5選手が栄冠を目指す。

県関係選手を含む250人規模の日本代表の活躍を期待したい。新型コロナウイルスの感染急拡大により、原則無観客での開催となるが、世界中から集まったパラアスリートたちが創意工夫をこらして限界に挑む姿をテレビの前で応援したい。

57年前、前回の東京パラで、中村博士は参加した外国人選手と日本の選手たちの就労状況と社会生活の格差に、がくぜんとしたという。外国の選手のほとんどが仕事を持ち経済的に自立して暮らしていた。対して日本の選手は53人のうち職業を持っていたのは5人で、他の人たちは家族や療養所での保護下で暮らしていた。

この体験が原動力となり、中村博士は前回東京パラの翌1965年に、障害がある人が残された能力を伸ばして働ける「太陽の家」を創設した。現在は県内外の施設・事業所に約1100人の障害者が在籍。うち半数以上は共同出資会社や協力企業で働き、地域と共に暮らしている。昨年7月には障害者の仕事やスポーツ、生活を学ぶことができる体験型資料館「太陽ミュージアム」がオープンした。

パラリンピックには「共生社会の実現」を促すという目的がある。障害のある人、ない人が共に生きる社会は、いろんな立場の人が互いに理解し、共に支え合う社会に通じる。共生について、より深い学びができる環境が大分県にはあることを忘れまい。

ミュージアムは新型コロナの感染拡大により今月18日以降、新規の見学受け入れを中止している。東京パラを共生に関して気づきを得る機会とし、競技での感動を胸に、見学再開を待ってミュージアムを訪ねたい。

東京パラリンピック開幕前日、笑顔で練習に臨む安尾笑（右）＝23日、東京都調布市の武蔵野の森総合スポーツプラザ

SDGs　③すべての人に健康と福祉を　⑪住み続けられるまちづくりを